

世界の金融危機が、私たちのテキストだった。



慶應義塾大学



秋田県立大館国際情報学院高等学校



東京都立荒川商業高等学校

日経STOCKリーグとは2000年よりスタートした、日本経済新聞社が主催する、中・高・大学生を対象とした株式学習コンテストです。5人までのグループに先生がついて、投資シミュレーションを行います。そこで培った知識をもとに、参加チームは「環境」や「モノづくり」など、個性豊かな投資テーマを設定し、自分たちのポートフォリオや学習の成果に関するレポートを作成します。2008年度の第9回大会には、全国から1,893チーム、7,449名が参加しました。株式に関する知識がほとんどゼロの状態からスタートして、自分たちで学び、考え行動し、中には企業訪問を行ったチームもありました。教科書の中の知識だけでは得ることのできない、生きた経済にふれ、未来に向けて力強い一歩を踏み出した若者たち。その成果が、もうすぐ発表されます。



高知工科大学

四国の企業を調査することで、地元の良さを発見する良い機会となりました。また、企業の株式の有効活用が、私たちの暮らしの支えになっていると実感できました。(高校生)

就活を控えているということもあり、大変参考になりました。中でも、企業が与える社会への影響の大きさを知ることができました。(大学生)

株式に関する機会が持てて、少し自分の世界が広がりました。(中学生)

実際に株式を買ったり売ったりすることで、仕組みがよく分かりました。株価の動きは景気に関することが分かりました。(中学生)



東京都立国際高等学校



尾道大学



山梨県立富士北峰高等学校



秋田市立秋田商業高等学校

9月のリーマン・ショックがとて印象に残っています。でも、こういう今だからこそ、良い会社を見つけることができることが分かりました。(高校生)



千葉県立一宮商業高等学校

私たちが投資することで経済が活性化し、また経済が活性化することで企業が利益を出し、配当として返ってくるという「win-win」の関係を築ける素晴らしいものだと感じました。(大学生)

株価の動きや円安、円高に関心がわき、そのことから世界の状況を予想するようになった。(高校生)



福山大学

株式投資を通じて、全国の学生たちと競争できたのが、楽しかった。(高校生)



跡見学園女子大学

第9回 中・高・大学生のための株式学習コンテスト

日経STOCKリーグ 表彰式&記念シンポジウム

参加費
無料

若者たちの経済学習の成果をお見せします。レポート審査により選出された最優秀賞(米国研修旅行にご招待)をはじめ各賞の発表。プロ顔負けの知識と若者ならではの新鮮な発想に満ちたプレゼンテーション。さらに経済界のリーダーたちが、経済教育のあり方について、熱く語り合います。

日時: 3月14日(土) 13:30-16:30 会場: 丸ビルホール (東京駅前)

表彰式 表彰 最優秀チームによるプレゼンテーション

記念講演 吉野直行氏 (慶應義塾大学 経済学部教授) 「分かりやすい株式市場、サブプライムローン問題・地域経済の活性化・長期投資の優位性」

パネルディスカッション「金融・経済教育の現状と今後」

パネリスト 三原淳雄氏 (経済評論家) 藤沢久美氏 (シンクタンク/ファイアバンク副代表) 海津政信氏 (野村證券株式会社 経営役員 金融経済研究所 チーフリサーチオフィサー) コーディネーター 横徳子氏

丸ビルホールで同日開催 サブプライム問題と世界同時不況—新しい金融システムのあり方を考える

京都大学経済研究所 経済金融教育シンポジウム

日時 3月14日(土) 9:30-12:00 参加費 無料

主催: 京都大学経済研究所 協賛: 野村グループ 協力: 日本経済新聞社

基調講演 「サブプライム問題とは何か」 刈屋武昭氏 (明治大学グローバル・ビジネス研究科長、京都大学経済研究所客員教授)

パネルディスカッション 「サブプライム問題と世界同時不況—新しい金融システムのあり方を考える」

佐和隆光氏 (金沢大学経済学部長、経済学博士、京都大学経済学専攻客員教授) 三ツ啓之氏 (スタンレー・エフ・エス、金融・証券法人及び公的部門向け部長、投資家ワークショップディレクター) 浪澤 健氏 (シブサワ・アンド・カンパニー、株式会社代表取締役、コンプライアンス推進委員会委員長)

参加申し込み方法

郵便番号、ご住所、お名前、年齢、勤務先あるいは学校名、電話番号、参加ご希望のコース名をご明記のうえ、電子メール、ハガキ、またはFAXで下記までお申し込みください。応募者多数の場合は抽選のうえ、「参加証」をお送りします。

締め切り 3月5日(木) 必着

お申し込み・お問い合わせ先 教育シンポジウム事務局 FAX.03-3545-6993

E-mail:0314sympo@info.email.ne.jp

お電話でのお問い合わせ先 TEL.03-3545-6832(10:00-18:00土・日・祝)

経済学習サイト man@bow (学ぼう) にアクセスすれば、日経STOCKリーグがくわしくわかる。

http://manabow.com

結果発表

経済教育の今、未来
企画・制作:日本経済新聞社クロスメディア営業局

広告企画

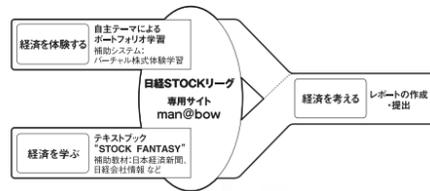
中・高・大学生のための株式学習コンテスト

第9回 日経STOCKリーグ

生きた経済にふれた、全国7,449名の若者たち。

日本の将来を担う若者たちが、生きた経済に触れ、学び、考えていく。日本経済新聞社は、中学生から大学生までを対象とした株式学習コンテスト「第9回 日経STOCKリーグ」を、昨年開催。全国より1,893チーム、7,449名が参加しました。日経STOCKリーグに参加した若者たちは、インターネットを活用した「バーチャル株式体験学習」や各自の投資テーマに沿ったポートフォリオづくりなどを通して、実際の経済の動きを体験し、金融の仕組みを学んでいきました。この体験をもとに

つくられた力作レポートを、審査委員会が審査し各賞を決定。3月14日に丸ビルホールにて、表彰式と記念シンポジウムが開催されました。教科書のなかの知識だけでは得ることのできない、生きた経済に触れ、自ら学び、考え、未来に向けて力強い一歩を踏み出した若者が、すでに約6万名。今回もたくさんの若者が日経STOCKリーグをきっかけに、「経済」という新しい視点を持ち、日本の進むべき道を見つけてくれたはず。



最優秀賞

チーム全員を
米国研修旅行に
ご招待

金融担当
大臣賞

鹿児島大学教育学部
附属中学校2・3年

メンバー: 櫻井 芳野さん、酒匂 隆幸さん、酒匂 美貴子さん
担当教諭: 大迫 朋則氏

MADE IN JAPANが世界を救う!

～今こそ日本のよさをアピールする時～



審査委員長講評

吉野直行氏

慶應義塾大学経済学部教授

この論文は、合計1,361本の応募論文の中から、視点がよく、内容もしっかりとした分析として、もっとも高い評価が審査員からなされた。

まず、最近忘れられている「日本のよさ」に着目して16社を選び、日本の企業の特徴、海外における日本の企業の評価、企業のビジョンなど、いくつかの軸を設けて企業を見よとする視点は素晴らしい。外国人の持ち株比率、設備投資、研究開発、決算書を読み込み、それぞれの企業の数年間のデータを比較し、同一企業の過去と現在を調べている。さらに、企業間の比較を行い、企業のやる気、設備投資・研究開発費で測っている。中学生で、ここまで深い分析ができるのかと思うほどの内容である。また、それぞれの会社の創業者とビジョンまで歴史的に調べて、会社の将来を考えて投資をしている点は、高く評価できる。また、書かれている文書もうまい表現が使われており、読みやすい論文である。

表彰式の後の発表においても、落ち着いて、中学生とは思えないほどの立派な研究成果の報告がなされた。

日経STOCKリーグに参加して
鹿児島大学教育学部附属中学校3年 櫻井芳野

きっかけは父でした。大学で社会学を教えている父の学生さんが日経STOCKリーグに参加していました。家には日本経済新聞、日経ビジネスや経済の本がありました。父の話も聞いてうちに、いつか私も挑戦してみたいと思いました。人間を幸福にする経済とはどんなものか知りたかったからです。

中学1年生になったとき、友達を誘って、経済の勉強をゼロから始めました。週に1度集まり、母に先生になってもらい、学習を進めました。わからないことがあると、父は私にもわかるように説明してくれました。確かでないことはインターネットと一緒に調べてくれました。鹿児島の日本銀行や野村證券、企業など、このような機会がなければ行くこともなかったところに行くことができました。

中学1年生の時、「自分の身は自分で守り隊～安全・防犯に貢献する企業に投資する～」で、中学2年生の時、「ひと粒の大豆から世界へ! 大豆ひと粒見てみれば～大豆関連企業に投資する～」で、取組賞をいただき

ました。そして今年、最優秀賞をいただきました。今回のテーマは、日本のよさについてもっと知りたいと思って決めました。米国ボストンにいたとき、「私たち日本人は日本の素晴らしいところをもっとアピールできたら」と強く感じたからです。米国の学校では日本のテストに相当するクイズもありますが、正解のない問題も多くあります。日経STOCKリーグで作成するレポートのようなもの1カ月に1度は作りました。たとえば、中世のお城を設計図から起こして作り直しました。よい支配者の選挙広告を作りました。自分の会社を作り、プレゼンテーションし、売り込みました。どんな教科でも、基本は調べて、レポートを書いて、発表します。米国で習ったことは今回のレポートでもとても役に立ちました。さらに、2年間、日経STOCKリーグで学んできたことも役に立ちました。

企業を見るとき投資家の多くはPER、PBR、配当利回り、自己資本比率、ROEなどを参考にしますが、それ以外にどんな方法で企業を見ることができると考えました。それで、企業を現在(外国人持ち株比率)、過去(決算書・創業者のビジョン)、未来(設備

投資・研究開発)という形で見ていくことに決めました。外国人持ち株比率は世界から日本の企業を見るという視点から、決算書に注目したのは、浪井真帆さんの講演でヒントをもらったからです。数字には必ず意味があることもわかりました。創業者には必ず成功の協力者がいるなど、それぞれとてもおもしろく感じました。レポートに書ききれなかったのが残念です。またグループでレポートを仕上げたのは、オーケストラでひとつの音楽を作っていくのに似てとても楽しかったです。

2008年前半までは好調だった日本経済ですが、世界同時不況が起こりました。私たちがもどろきました。しかし学ぶことも大きかったです。日本は必ず本来の姿に戻ると信じています。私たちは今何でもできませんが、学び、経験するという自己投資をちゃんとして、将来、西郷隆盛の言葉にあるように、「良い種を蒔き、全力をつくして育てる」人になりたいです。

日経STOCKリーグに参加させていただき、その上素晴らしい賞をいただき本当にありがとうございました。

部門賞 中学部門

The Noise Busters
～投資で創る 静かな社会～

チーム全員をユニバーサル・スタジオ・ジャパンまたは東京ディズニーリゾートにご招待

本郷中学校3年

メンバー: 櫻井 幹生さん、石田 啓さん、小沢 隆さん、矢吹 崇明さん、石井 伸亮さん
担当教諭: 横山 省一氏

(中学部門は図書カード5万円分、高校・大学部門は賞金5万円)

- 岡山県立岡山盲学校 2・3年 / 「未来を創る太陽電池」太陽電池がエネルギー革命を起こす
- 立教池袋高等学校 2年 / PINCH-CHANCE-CHANGE!? ～百年に一度の大不況をバリュー投資で乗り越える～
- 茨城県立水戸商業高等学校 3年 / 明日への架け橋 再生医療
- 東京経済大学 2・3・4年 / 日本企業が超こす原子力「新」時代 ～世界に誇る日本の原子力技術～
- 慶應義塾大学 4年 / 娯楽ファンドのすすめ!

(中学部門は図書カード3万円分、高校・大学部門は賞金3万円)

- 筑波大学附属高等学校 2年 / 濃黒の夜が暗ければ暗いほど、星は明るく輝き、未来への道を照らす
- 同志社大学 3年 / 京都式企業の可能性 ～古都に潜む底力～
- 同志社大学 3年 / サイコロ分析 ～行動ファイナンスによる株価分析～

(賞金3万円) レポート提出チーム中で、自主テーマによるポートフォリオ学習(仮想株式投資権500万円を運用)の残高(2月1日時点)上位5チーム
●関西学院大学 / 6,313,510円 ●関西学院大学 / 6,188,831円 ●兵庫県立加古川東高等学校 / 6,100,154円
●岡山県立岡山盲学校 / 6,021,443円 ●国際基督教大学 / 5,932,391円

パフォー
マンス賞

部門賞 高校部門

THE BEST PARTNER
～「ゆうえんち」から学んだ大切なこと～

賞金20万円

大分県立情報科学
高等学校3年

メンバー: 伊東 和樹さん、西藤 沙也加さん、矢野 鈴鹿さん
担当教諭: 衛藤 孝氏

部門賞 大学部門

恐慌を超える
～“否定する”企業たち～

賞金20万円

一橋大学3年

メンバー: 岡田 悠さん、西尾 和哉さん、藤山 敬史さん
担当教諭: 加賀谷 哲之氏

BSジャパン・日経CNBCで日経STOCKリーグの特別番組を放送!

経済で日本を学ぶ!世界を感じる! 日経STOCKリーグ2009

日経STOCKリーグに参加した学生たちの取引体験や、レポート作成風景を密着取材。経済というテーマに体当たりしていく彼らの姿に、日本経済の将来が見えてきます。

放送日時

BSジャパン: 4月24日(金) 19:00～19:55

日経CNBC: 4月28日(火) 20:30～21:30

5月3日(日) 11:00～11:55 (再放送)

5月5日(火・祝) 16:00～16:55 (再放送)

日経STOCKリーグの詳しい内容、受賞レポートの内容は、<http://manabow.com/> 経済学習サイトman@bow(まぼ)でご覧いただけます。

次は、君たちだ。

第10回日経STOCKリーグ 参加チーム募集開始

参加チームをサポートされる先生のための説明会を開催する予定です。(7月下旬) 開催日時、詳細などにつきましては、参加手続き終了後に直接ご案内いたします。

内容 中学生・高校生・大学生を対象にした「自主テーマによるポートフォリオ学習」および「レポートコンテスト」
参加期間 ①「自主テーマによるポートフォリオ学習」: 10月1日(木)～11月30日(月)
②「レポートコンテスト」の締め切り: 2010年1月8日(金)
※「バーチャル株式体験学習」: チーム登録後～2010年3月下旬(任意参加)
参加資格 国内在住の中学生・高校生・大学生(短期大学生、専門学校・各種学校生含む)
参加申込方法 経済学習サイトman@bow(まぼ) <http://manabow.com/> からの申し込みとなります。
参加申込受付期間 第1次締め切り: 6月30日(火) / 第2次締め切り: 9月5日(土)
お問い合わせ 日経STOCKリーグ事務局
TEL: 03-3545-9823 E-mail: stockleague@info.email.ne.jp
※1チーム3～5名とし、チーム単位で申し込みください。同じ学校内であれば、チーム編成はクラス、クラブ、ゼミなど自由です。
※ご参加いただく際は必ずご招待いただく教諭(教員)をお付けください。

賞	
最優秀賞	全参加チームより1チーム チームメンバー全員を 米国研修旅行にご招待
部門賞	中学部門・高校部門・大学部門より各1チーム、計3チーム [中学部門] ユニバーサル・スタジオ・ジャパンまたは 東京ディズニーリゾートにご招待 [高校・大学部門] 賞金20万円
取組賞	中学・高校・大学部門から数チーム [中学部門] 図書カード5万円分 [高校・大学部門] 賞金5万円
審査委員特別賞	中学・高校・大学部門から数チーム [中学部門] 図書カード3万円分 [高校・大学部門] 賞金3万円 ※「ポートフォリオ学習」に参加し、またレポートを提出したチーム全員に「参加賞状」を差し上げます。

第9回 日経STOCKリーグ

表彰式& 記念シンポジウム

いま、なぜ金融・経済教育が求められているのか

日本の将来を担う若者が、生きた経済に触れ、学び、考えていく。チーム7,449名が参加しました。3月14日には丸ビルホールで、表彰式とともに記念シンポジウムを開催。教育の現場で活躍中の著名人コンテスト「第9回 日経STOCKリーグ」を、昨年開催。全国より1,893名を迎え、経済教育について、熱気あふれる討論が行われました。

記念講演

分かりやすい株式市場、サブプライムローン問題・地域経済の活性化・長期投資の優位性

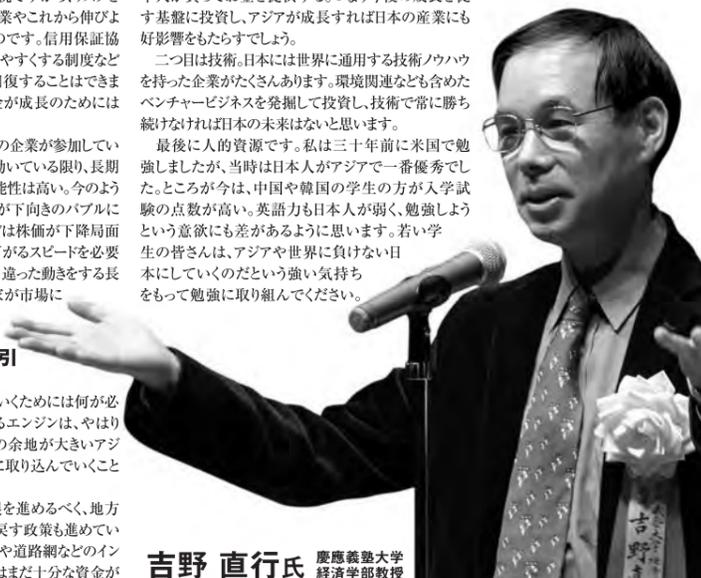
日本市場の安定化へ、いよいよ日本人投資家 リスク取れる株式投資でベンチャーを支援

日本ではバブルにより株価・地価が一八九〇年代後半の数年間で約三倍に膨張、その後、八九九年をピークに三分の一まで下落しました。それにより銀行が不良債権を抱え、企業への貸し出しを急速に抑える傾向になり、多くの企業の経営に影響を及ぼしました。これに対して、今回の金融危機で米国などが取った措置は、公的資金を直ちに銀行に注入することで、銀行が継続的に企業へ貸し出しできるようにすることで企業活動を守ることが目的です。これは短期の政策としてはうまくいったと思います。

サブプライムローン問題は日本の株式市場にも影響をもたらしました。日本の市場は、株式の保有では日本人が多いものの、取引の部分では六割程度が外国人。サブプライムローン問題で外国人が市場から抜け出すと株価が下がってしまうのです。一般にアジアは貯蓄率が高く、資金運用も預貯金中心。アジア域内の株式市場ではあまり投資が進まず、貯蓄の多くを欧米の債券市場に長期に運用する傾向があります。逆に、欧米からアジアへは株式投資や短期のヘッジファンドとして戻ってくるという流れです。したがって金融危機が起きると欧米からの投資資金が激減します。世界の他地域の市場の影響を減らすためにも、アジア域内や日本国内で株式運用する人を増やす必要があると思います。

は、結局は、将来の国民負担によって安全性が確保されているのです。預貯金は安全重視ですから、リスクをなかなか取れず、地元の中小企業やこれらから伸びようという企業にお金が流れにくいのです。信用保証協会の保証で中小企業がお金を借りやすくする制度などもあります。それだけで成長を回復することはできません。ある程度リスクを取れる資金が成長のためには必要になると考えます。株式市場には成長性の高い多くの企業に参加していますから、日本経済が成長方向に動いている限り、長期的には預貯金の利回りを上回る可能性は高い。今のようになっているのは、市場が下向きのパブルになっているため。米国の投資家などは株価が下落局面になるととんとん売っていくので、下がるスピードを必要以上に速めてしまう。その意味でも、違った動きをする長期の視点で考える日本人の投資家が市場にもっと出てくる必要があります。

ないため「インフラボンド」という債券を発行し、それを日本人が買ってお金を提供する。つまり今後の成長を促す基礎に投資し、アジアが成長すれば日本の産業にも好影響をもたらすでしょう。二つ目は技術。日本には世界に通用する技術ノウハウを持った企業がたくさんあります。環境関連なども含めたベンチャービジネスを奨励して投資し、技術で常に勝ち続けなければ日本の未来はないと思います。最後に人的資源です。私は三十年前に米国で勉強しましたが、当時は日本人がアジアで一番優秀でした。ところが今は、中国や韓国の学生の方が入学試験の点数が高い。英語力も日本人が弱く、勉強しようという意欲にも差があるように思います。若い学生の皆さんは、アジアや世界に負けない日本にしていけるのだという強い気持ちをもって勉強に取り組んでください。



吉野 直行氏 慶應義塾大学 経済学部教授

世界経済はアジアがけん引

では、今後日本経済が成長していくためには何が必要か。今後の世界経済を引っ張るエンジンは、やはり中国、インド、アセアン、つまり成長の余地が大きいアジアです。これらの成長を日本の中に取り込んでいくことが必要です。例えば中国では今、地方の発展を進めるべく、地方から都会に出てきた人材を故郷に戻す政策も進めています。地方経済の活性化には鉄道や道路網などのインフラ整備が不可欠ですが、中国にはまだ十分な資金が

間違ったインセンティブ

この債権を証券化した一つの機関の一つが連邦政府抵当金庫(GNMA)です。GNMAでは仕事の効率は

パネルディスカッション

金融・経済教育の現状と今後

百年に一度の危機が教えた金融の重要性 ヒト・モノ・カネの融合で明るい日本に



国内企業の強さに着目 審査を終えての感想をお聞かせください。三原 審査を終わっての感想をお聞かせください。その審査員を辞退したいというものが正直なところ。回を追うごとにレベルが上がり、簡単に点数を付けられないからです。笑。また論理性には多少難があっても、独創性は捨てがたい。二つ目は、今年も新しい審査員特別賞を設けました。企業の優秀さがはつきり見てくる。海外依存度の高い日本が富を生み出さなければ国内企業を強くしていくしかない。そんな点に着目したレポートが今回非常に多かったと思います。百年に一度の危機を背景に、経営者の能力を見極めるいい機会であることに着目したり、株価と実体経済が必ずしも連動していない点を押さえたレポートも目に付きました。私自身いろいろなレポートに教えられる。収穫の多い年というのが実感です。

日本に好機、環境の時代 「資本主義は終わった」「金融市場崩壊」など、最近では極端な論調が多過ぎるようになってきました。三原 生徒を均質化しようとする教育のせい。日本人は物事を画的に判断しがちです。非正規雇用の問題も、膨大な内部留保を持つ大企業はリストアップするのは難しいからという論調になる。これが米国だと三万人の企業が全員の雇用を守って総崩れするのと、三千人にやめさせて二万七千人助かるのとどちらが社会にとっていいか議論すると思う。日本はその議論がないんです。

まず身近な経済を理解 藤沢さんは日銀と組んで教育の現場に行かれています。中高生はほとんどマインドで金融に接しています。藤沢 エコノミーを機に変わりました。以前は株式投資をしないと社長になりたという人が多かったのですが、今は「別にいい感じ。二人の困っている人を結びつけて同時に助けられる会社を作ってみよう」という課題を出しても、「周りに困った人がいない」という反応なんです。ちょっと寂しい気はします。

藤沢 今年には特に面白かったですね。読み入ったものが多かった。特に良かったと思う点が三つあります。一つはグローバルな視点。日本企業が海外の企業と比べてどう素直らしいのか、具体的に示したレポートは減っていて非常に強く感じました。二つ目は未来志向。昨までは今議論されていることがテーマに多かったのが多かったのですが、今後は将来日本が元気になるにはどうしたらいいか、といった前向きな内容が多くなりました。三つ目は、歴史や科学などほかの教科と結びつけたレポート。学問的な知識が活かされていることがよく見られました。

藤沢 三原さん、ありがとうございます。藤沢 藤沢さんは日銀と組んで教育の現場に行かれています。中高生はほとんどマインドで金融に接しています。藤沢 エコノミーを機に変わりました。以前は株式投資をしないと社長になりたという人が多かったのですが、今は「別にいい感じ。二人の困っている人を結びつけて同時に助けられる会社を作ってみよう」という課題を出しても、「周りに困った人がいない」という反応なんです。ちょっと寂しい気はします。

藤沢 藤沢さんは日銀と組んで教育の現場に行かれています。中高生はほとんどマインドで金融に接しています。藤沢 エコノミーを機に変わりました。以前は株式投資をしないと社長になりたという人が多かったのですが、今は「別にいい感じ。二人の困っている人を結びつけて同時に助けられる会社を作ってみよう」という課題を出しても、「周りに困った人がいない」という反応なんです。ちょっと寂しい気はします。

日経CNBCで日経STOCKリーグの特別番組を放送! 経済で日本を学ぶ!世界を感じる! 日経STOCKリーグ2009 5月3日(日)11:00~11:55 5月5日(火・祝)16:00~16:55 http://manabow.com/

次は、君たちだ。第10回日経STOCKリーグ 参加チーム募集開始 4/21から 内容 中学生・高校生・大学生を対象にした「自主テーマによるポータル学習」および「レポートコンテスト」 参加期間 ①「自主テーマによるポータル学習」:10月1日(木)~11月30日(月) ②「レポートコンテスト」の締め切り:2010年1月8日(金) ※「バーチャル株式体験学習」:チーム登録後~2010年3月下旬(任意参加) 参加資格 国内在住の中学生・高校生・大学生(短期大学生、専門学校・各種学校生含む) 参加申込方法 経済学習サイト man@bow (まぼ) http://manabow.com/ からのお申し込みとなります。 参加申込受付期間 第1次締め切り:6月30日(火) / 第2次締め切り:9月5日(土) お問い合わせ 日経STOCKリーグ事務局 TEL:03-3545-9823 E-mail:stockleague@info.email.ne.jp ※1チーム3~5名とし、チーム単位でお申し込みください。同じ学校内であれば、チーム編成はクラス、クラブ、ゼミなど自由です。 ※ご参加いただく場合は必ずご指導いただく教諭(教員)をお付けください。